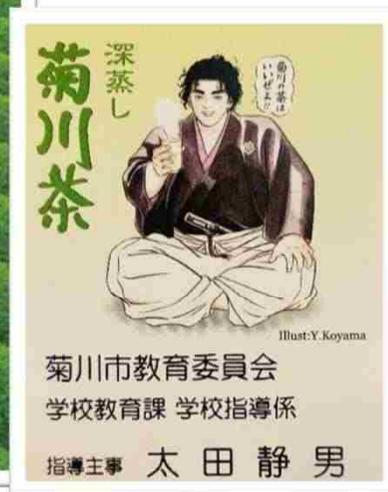
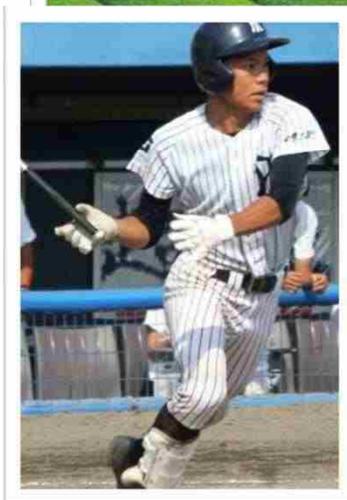
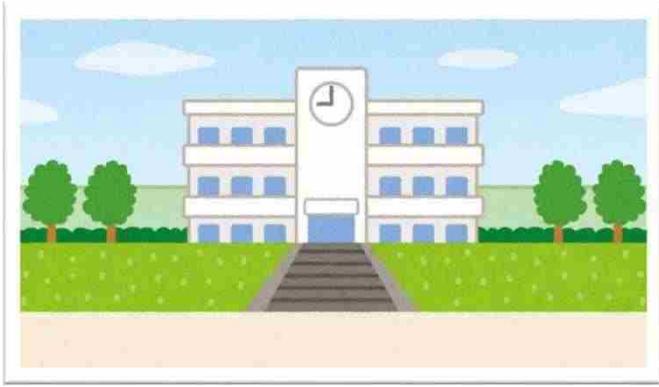


静岡県菊川市の「魅力ある学校づくり」



静岡県菊川市教育委員会 学校教育課 太田 静男 2020.12.14
Tel:0537-73-1113 e-mail:gakkou@city.kikugawa.shizuoka.jp



1 なぜ 「魅力ある学校づくり」なのか

2 菊川市の取組（成果を含む）

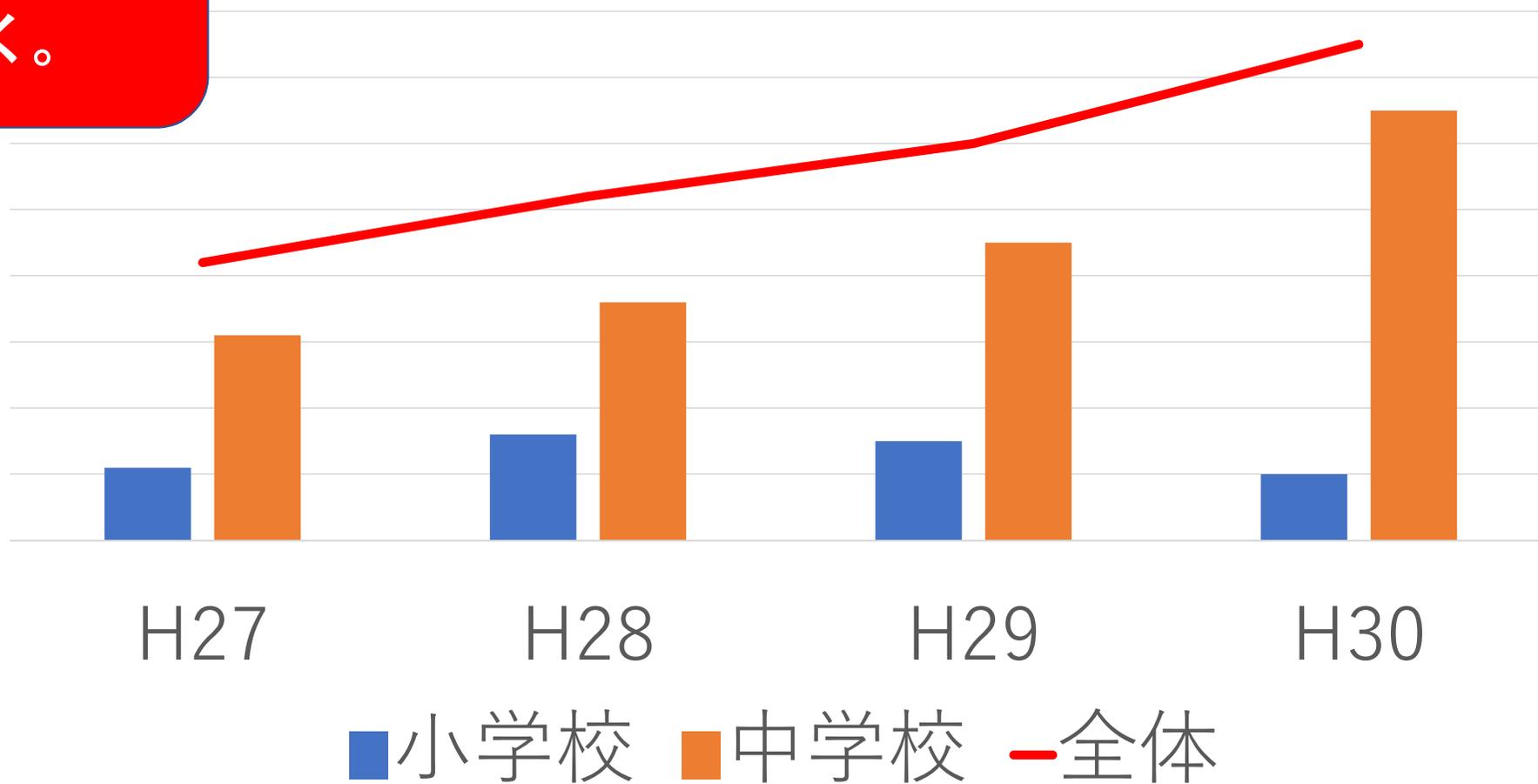


3 今後の展開



不登校者数は
年々増加して
いく。

不登校児童生徒数（菊川市）



でも、菊川市の先生たちは子供のために頑張っている。

- ・ 授業
- ・ 学校行事
- ・ 部活動
- ・ 生徒指導
- ・ 家庭訪問
- ・ 専門家や関係機関、地域と連携 など

むしろ、不登校の兆しが見えた子供がいたら、

不登校の子供が出現したら、

不登校の子供が増加したら、

菊川市の先生たちはもっと子供のために頑張っている。

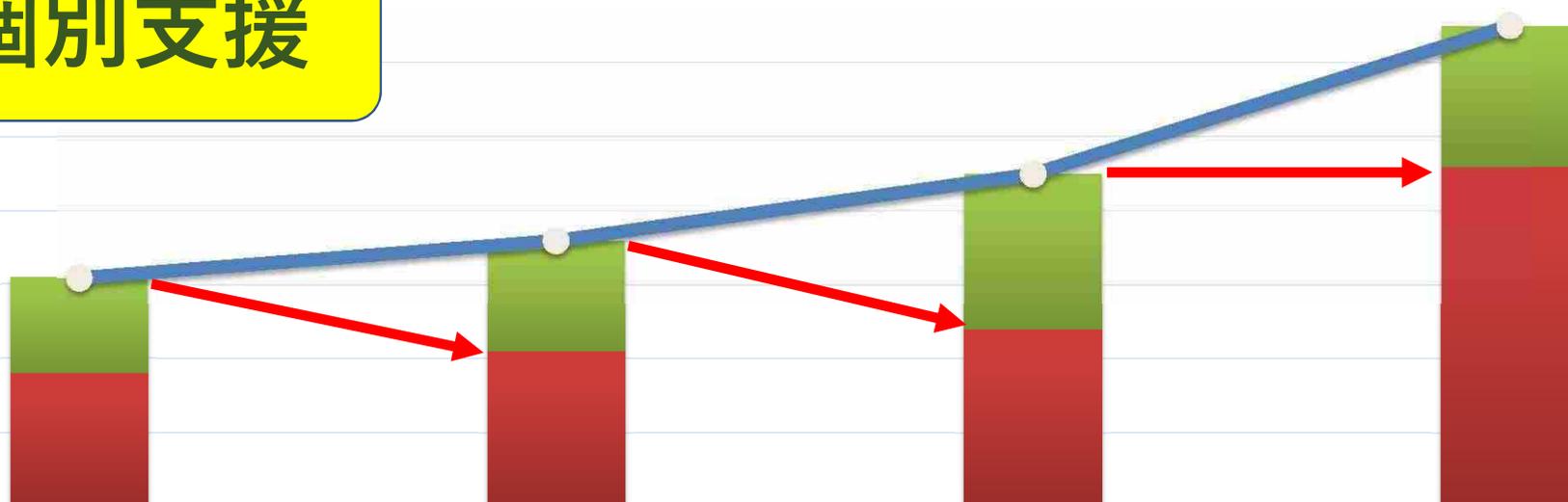
- ・ 支援会議
- ・ 家庭訪問
- ・ 専門家や関係機関との連携 など

個別支援

中学校不登校生徒数(継続数・新規数)

↑前年度、不登校

個別支援



H27

H28

H29

H30

■ 継続数

■ 新規数

● 不登校生徒数

菊川市の特色・外国籍児童生徒への配慮

多文化共生ならではの取組(岳洋中では)

○外国にルーツを持つ生徒 (およそ1割)

- ・日本語指導が必要な生徒
- ・特別の教育課程

☆ルーツのある国

- ・ブラジル
- ・フィリピン
- ・中国
- ・ベトナム
- ・ペルー

◇最近の傾向

- ・日本生まれの外国籍生徒増
- ・低年齢の時に来日するケース増



2つに分けて考える「新規数」と「継続数」の不登校対策

不登校生徒の取組には、「新規数に着目した取組」と「継続数に着目した取組」があり、それぞれによって取組の対象や主たる取組が異なるため、対応するチーム学校の構成員（「教員のみ」、「教員＋専門職＋関係機関」）も変わる。

対 象

主たる取組

2つの「チーム学校」

新規数を抑制する	すべての児童生徒	<div style="background-color: #4a7c9c; color: white; padding: 2px; text-align: center; font-weight: bold;">未然防止</div> 集団指導	<div style="border: 2px solid red; border-radius: 50%; padding: 20px; background-color: #fff9e6;"> 教員の同僚性をいかした 「チーム学校」 </div>
	上記のうち兆しの見えた児童生徒	個別支援	
継続数を減少させる	前年度不登校であった児童生徒	個別支援	

教員に加え、SC・SSW・適指関係者等多職種による「チーム学校」

先生方が日々行っている教育活動は

すべての子供の幸せのために行われている。

すべての先生方が心を一つにして頑張っている。

すべての子供にとって魅力ある学校になってほしいと願っている。

「魅力ある学校」とは



①と②ができる学校

- ① 各学校の教職員により、児童生徒が安心して自己有用感や充実感を感じられる場所が提供され （居場所づくり）
- ② すべての児童生徒にとって主体的に取り組む活動を通し、自らが「絆」を感じ取り紡いでいくこと （絆づくり）

- そのための取組は、どの学校でもすべての児童生徒を対象に毎日行われているもの
- これまで各学校・各学年で行ってきた取組を、計画的・継続的に点検・見直しを行い、子どもたちへの「浸透度」を高める



「浸透度」を測るために

① 「意識調査」を活用する

質問項目は「学校は楽しいですか」「みんなで何かするのは楽しいですか」「授業に主体的に取り組んでいますか」「授業はよくわかりますか」

② 「意識調査」の結果を「子どもの声」として受け止める

→教職員の取組が「子どもに伝わっているか」「自分たちの認識に
ずれはないか」、指標をもとに検証する

児童生徒の実態を把握します。
実態把握には「子どもの声調査」を活用します。

ア 学校校が楽しい
イ みんなで何かをするのは楽しい
ウ 授業に主体的に取り組んでいる
エ 授業がよくわかる



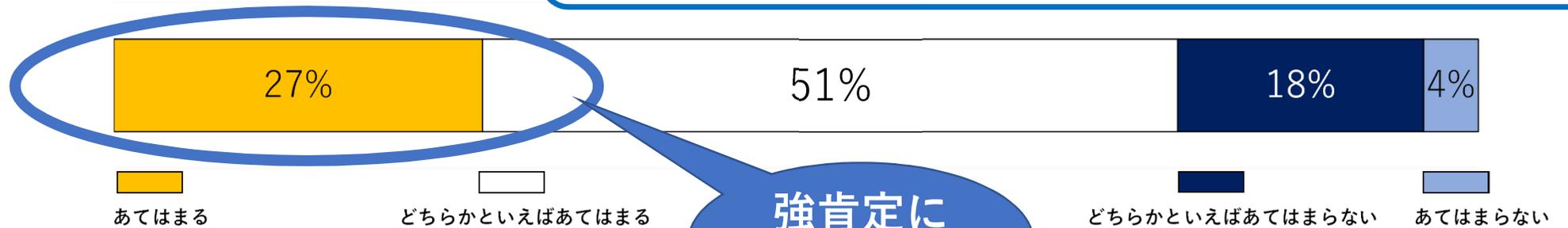
子どもの声に真摯に
耳を傾けましょう。

- 1 当てはまる
- 2 どちらかと言えば当てはまる
- 3 どちらかと言えば当てはまらない
- 4 当てはまらない

▶意識調査のどこに注目するか

ウ 授業に主体的に取り組んでいる

- ・「あてはまる」に着目→増加・維持するために何が必要か協議する。
- ・「どちらかといえばあてはまる」と答える理由や、「どちらかといえば」を除くために必要な取組を考える。



▶意識調査の主たるターゲット

特定の子供・集団
配慮を要する //
リーダー的な //

ではない子供（全体の6～7割？）
＝「すべての子供」という表現でしか
主役たりえない可能性のある子供たち

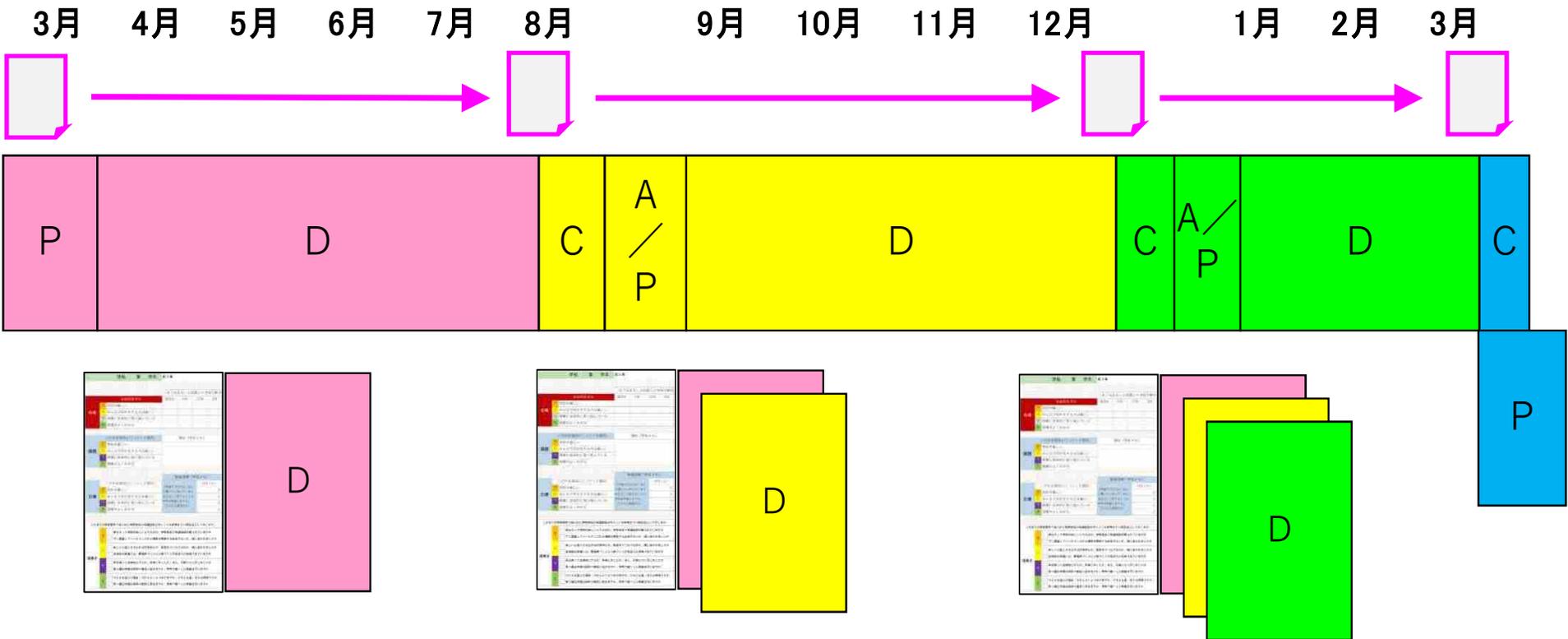
▶意識調査でわかること

~~「取組の先進性」~~

↑
「取組の浸透度」

P D C A サイクル

意識調査



- 「意識調査」の結果を受け、
 - ・ 期待された変化が見られた場合には、
「何が成果を上げたのか」を共有し、今後の取組に生かす。
 - ・ 期待されるような変化が見られなければ、
自分たちの計画や取組の 「どこに問題があったのか」
「どこが不十分だったのか」を議論する。

○ポイントは…

「意識調査」の結果をもとにした検証を、取り組んでいる教職員全員で議論し、それぞれの取組について「共通認識」し「徹底」して取り組むこと

各学校独自の取組を「共通認識」し「徹底」する！

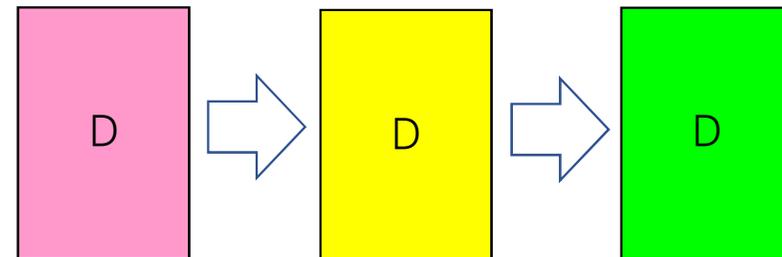
ポイント

P D C A サイクル

「居場所づくり」と「絆づくり」の違いを理解し、
バランスよく取り組んだか。

(ともすれば「居場所づくり」に偏る)

集団全体の力量を見積もり、適切な「場と機会」の
提供を繰り返しめざす。



全ての児童生徒の
「心の居場所」
となる学校

そのために

教職員が、児童生徒が安心できる、自己存在
感や充実感を感じられる場所を**提供する**
【安心安全な学校づくり】

全ての児童生徒の
「絆づくりの場」
となる学校

そのために

児童生徒が、主体的に取り組む活動を通
し、自らが「絆」を感じ取り、紡いでいく
【場と機会の設定】

学校生活に関するアンケート

〈小学校〉

① 現在の学校生活について、あなたはどのように感じていますか。当てはまるものを下の1から4の中から一つずつ選び、その番号に○を付けてください。

	当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない
ア 学校が楽しい・・・・・・・・・・	1	2	3	4
イ みんなで何かをするのは楽しい・・・	1	2	3	4
ウ 授業に主体的に取り組んでいる・・・	1	2	3	4
エ 授業がよくわかる・・・・・・・・・・	1	2	3	4

期間を入力する

② ○月になってから今までに、次のようなことを、この学校のだれか（お友だち）からされたり、反対にこの学校のだれか（お友だち）にしたりしましたか。当てはまるものを下の1から4の中から一つずつ選び、その番号に○をつけてください。

	まったくなかった	今までに2～3回あった（少しあった）	月に2～3回あった（あった）	週に1回以上あった（よくあった）
オ 叩かれたり、けられたり、強く押されたりした（暴力を受けた）・・・・・・・・	1	2	3	4
カ 暴力ではないが、いじわるをされたり、イヤな思いをさせられたりした・・・	1	2	3	4
キ 叩いたり、けったり、強く押したりした（暴力をふるった）・・・・・・・・	1	2	3	4
ク 暴力ではないが、いじわるをされたり、イヤな思いをさせたりした・・・・・・・・	1	2	3	4

① 子供の声調査

② 教職員個人で分析

ワーク：子どもの声（〇〇小）を分析

データ 3月調査において「あてはまる」と回答した生徒の割合



データ→課題

③チーム学校 プラン

・課題（こだわる項目理由）



・目標（3月に10人中何人が当てはまると回答するか）



○具体的に仕掛ける内容



○行動計画

PDCA× 2回目 令和2年度 9月～12月の取組に向けて

① 7月意識調査において「当てはまる」と回答した割合



②課題(こだわる項目とその理由)

--

③目標(こだわる項目と数値目標「1年後の3月に10人聞いたら何人が当てはまると解答するか」)

--

④ 9～12月に具体的に仕掛ける内容

	こだわる事項	こだわる項目について	こだわる項目以外に関わる取組について
1年生			
2年生			
3年生			

⑤行動計画

	1年生	2年生	3年生
9月			
10月			
11・12			

⑥査察

--

PDCA× 2回目 令和2年度 9月～12月の取組に向けて

小笠南小

① 意識調査において「当てはまる」と回答した割合(左:3月 右:7月)



② 課題(こだわる項目とその理由)

ウ 授業に主体的に取り組んでいる
 ・1学期の子どもの声調査における項目ごとの相関分析により、主体性を高めることで他の項目も向上していると考えられるため。

③ 目標(こだわる項目と数値目標「1年後の3月に10人聞いたなら何人か」と解答するか)

「授業に主体的に取り組んでいる」
 4年生…10人中6人
 5年生…10人中5人
 6年生…10人中6人

④ 9～12月に具体的に仕掛ける内容

	こだわる項目	こだわる項目について	こだわる項目以外に関わる取組について
4年生	ウ 授業に主体的に取り組んでいる	○授業に主体的に取り組む姿を学級の授業像とリンクさせ、学級のみならず共有する。 ○授業において身に付けさせたい力を明確にする	
5年生	ウ 授業に主体的に取り組んでいる	○「主体的」な姿を共通理解を図る。 ○授業像と反映させる。	
6年生	ウ 授業に主体的に取り組んでいる	○めざす授業像に反映させながら、主体的な姿を共有する。	

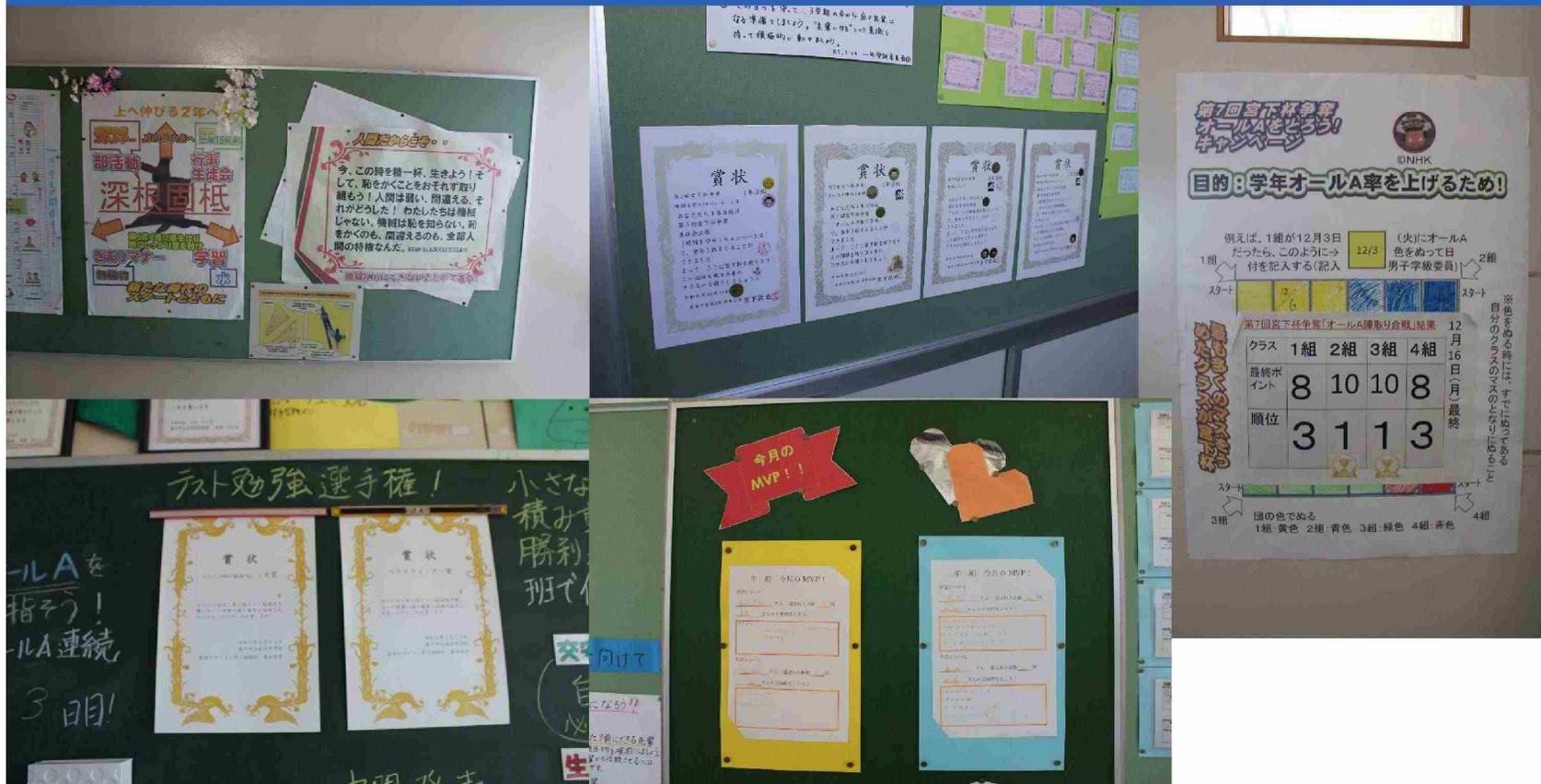
⑤ 行動計画

	4年生	5年生	6年生
9月	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の中で、自分事となる問いを大切に、その解決する過程をみつめ自己評価するサイクルを大切にする。 ○よい表れを見取り合い、称揚することで、自己肯定感を育む。 ○自分の思考の過程を表したノートを掲示し称揚する。 ○根拠を明確にして伝えることを大切にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○1日のMVPを発表し、賞揚する。(主体的な現れ) ○良いノートを掲示する。(振り返りの内容を共有) ○表現力を向上させる。大きな声で、論理的に話すことで、話の意図が聞き手に伝わるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業のあいさつで、授業像とリンクしたあてや振り返り(自己評価または、よかった人等)を言う。 ○帰りの会の褒め言葉シャワー(掲示する) ○よいノートの掲示(よいノートのポイントを明示) ○ねばり強く追究する場面を設ける。
10月	↓	↓	↓
11・12月			

⑥ 考察

各学年部の具体的ななしかけ (1年生)

目標指標 「学校が楽しい」



わからん印&わかった印で授業の困り感を共有学級 MVPを授業で活躍した人から選ぶ取組



授業がよくわかる



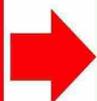
学校が楽しい

各学年部の具体的ななしかけ（2年生）

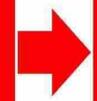
目標指標 「授業に主体的に取り組んでいる」



授業に主体的に取り組ませたい



アンケート考察から、行事で大きく伸びる傾向日常をイベント化し、行事の成長を持続する試み



不登校
少ない

各学年部の具体的ななしかけ(3年生)

目標指標 「みんなで何かをするのは楽しい」



中2 3月
アンケート
低調

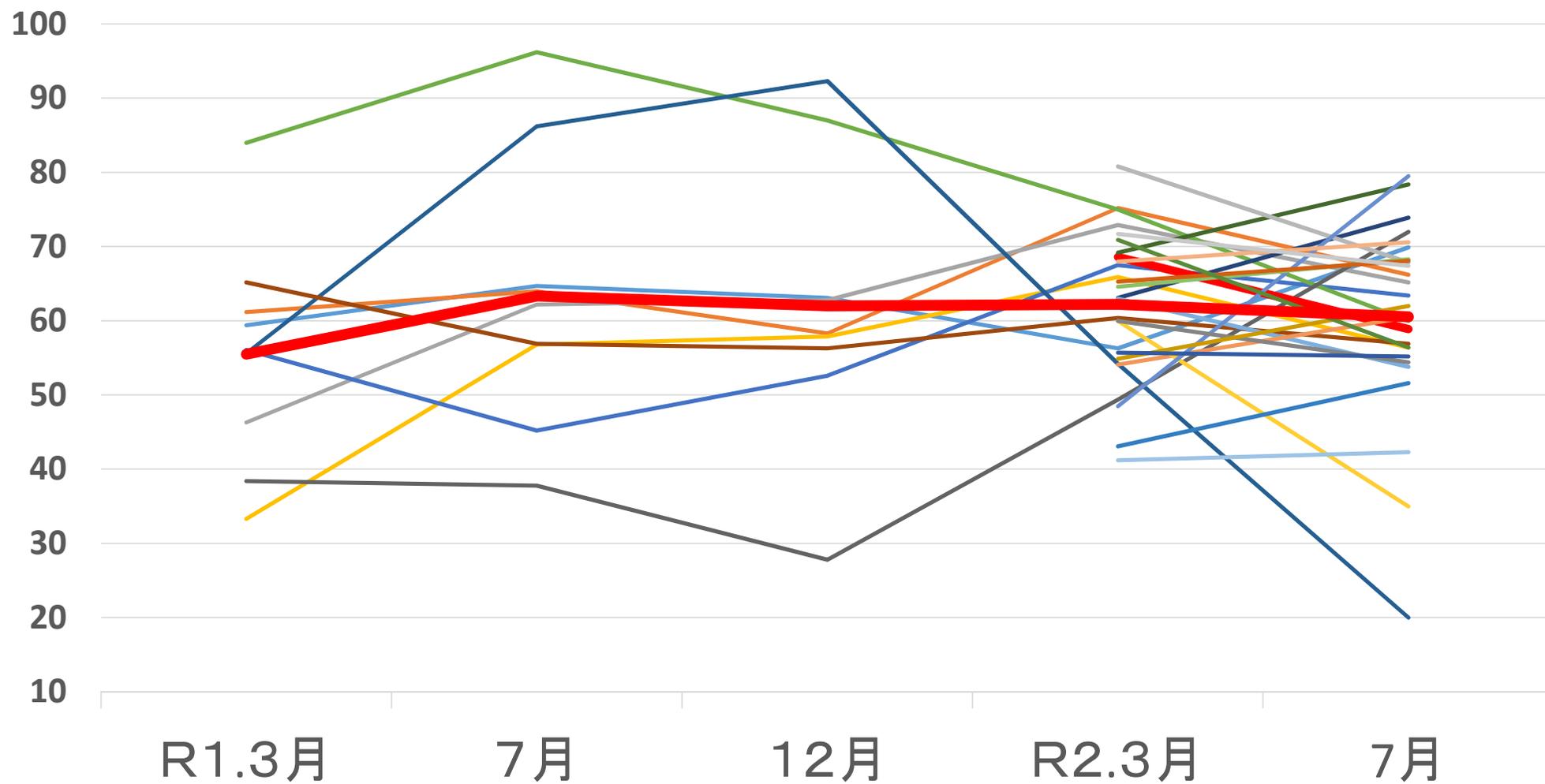


不登校
相談室
登校多い

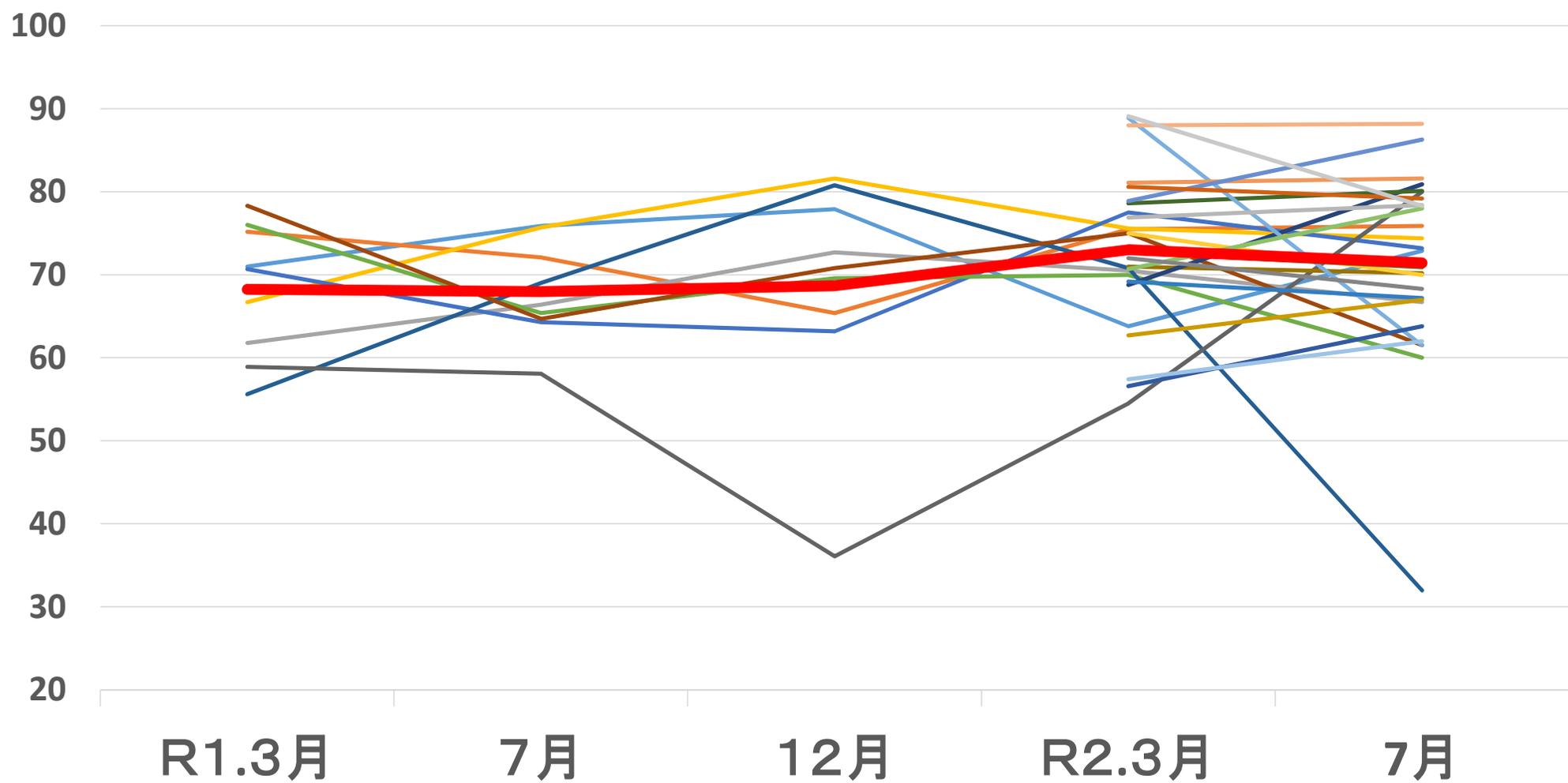


みんなで何かをする楽しさを感じさせたい
学校が楽しいところだと感じてほしい

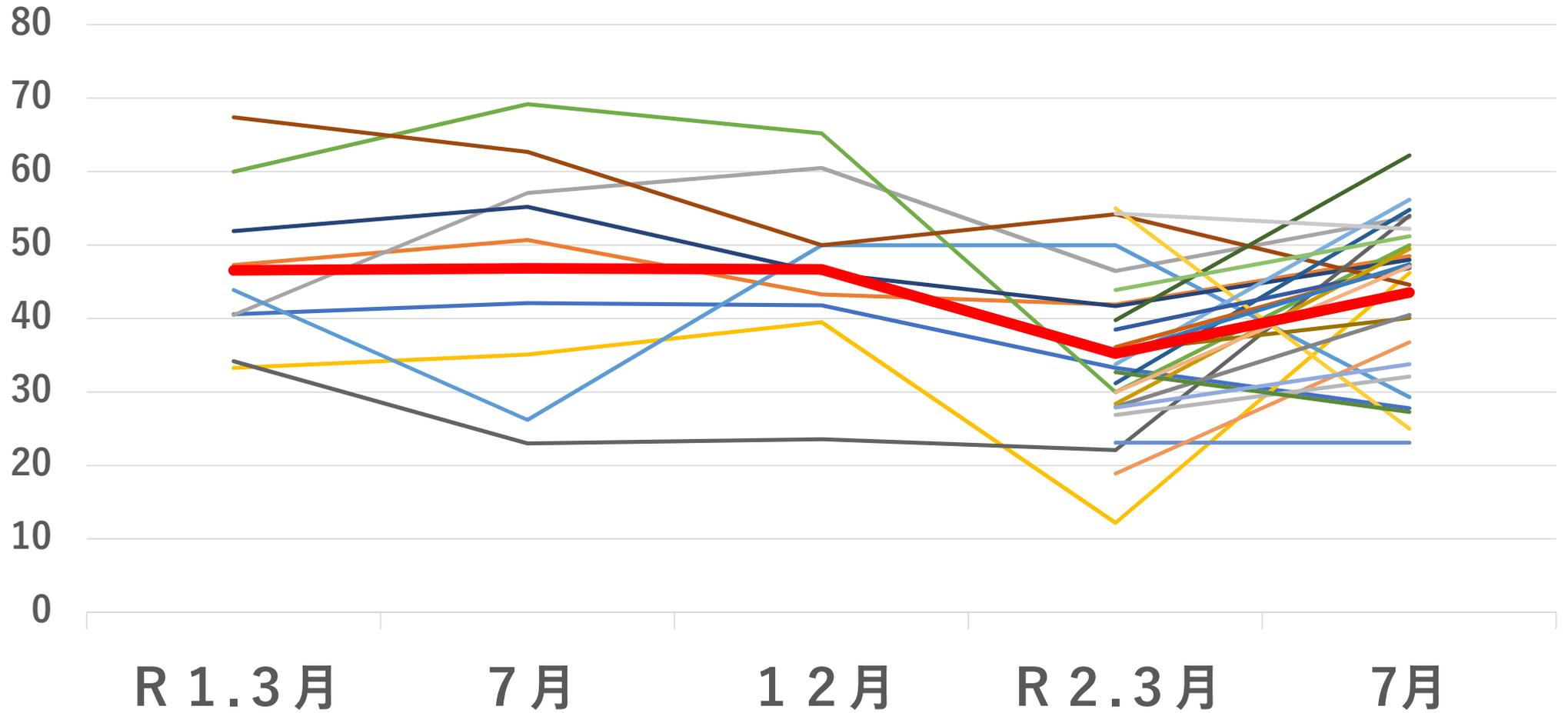
ア 学校が楽しい



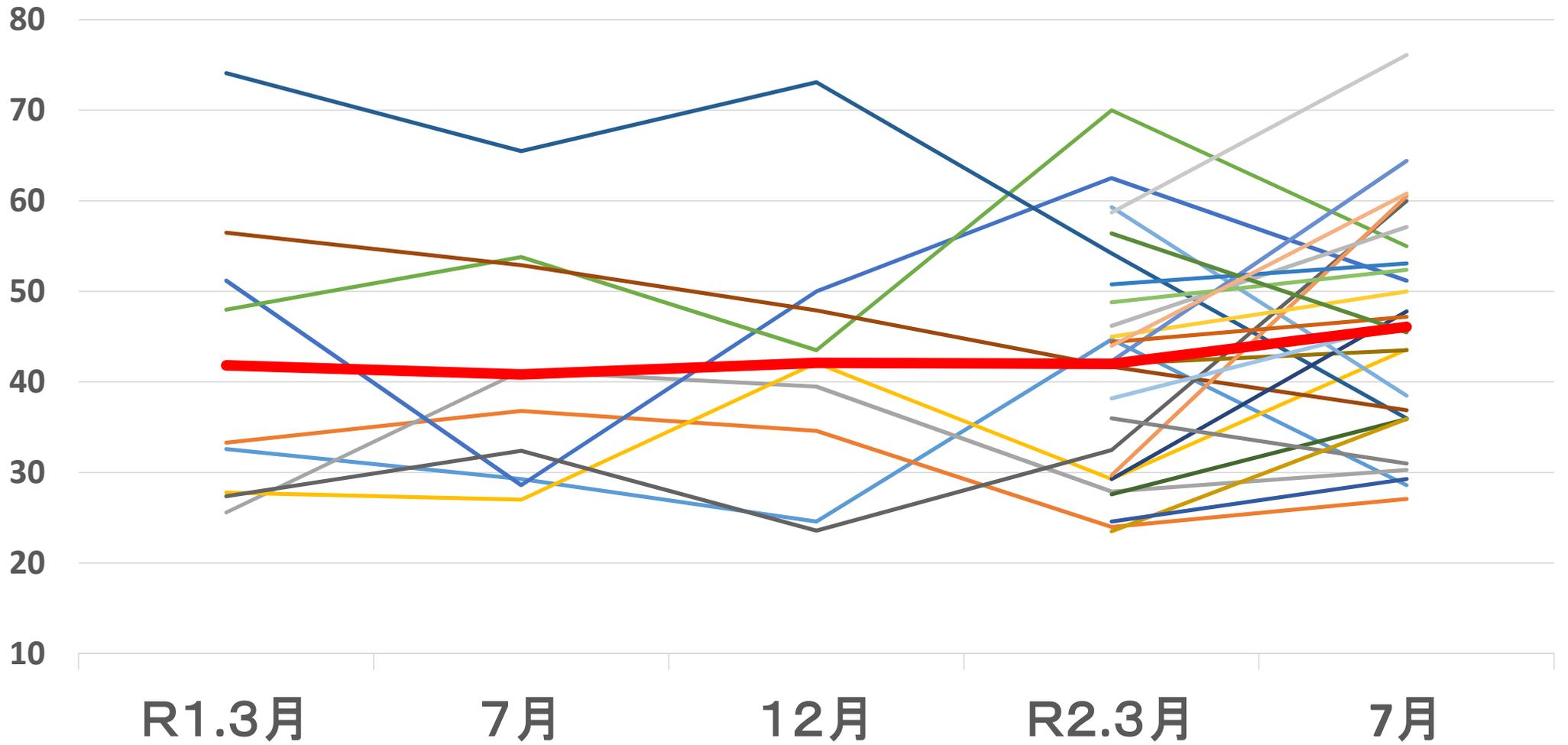
イ みんなで何かをするのは楽しい



ウ 授業に主体的に取り組んでいる



エ 授業がよくわかる



学校生活に関するアンケート

- ② 6月になってから今までに、次のようなことを、この学校の生徒からされたり、反対にこの学校の生徒にしたりしましたか。当てはまるものを下の1から4の中から一つずつ選び、その番号に○を付けてください。

いじめに
関する
4項目

	まったく なかった	今までに2～ 3回あった (少しあった)	月に2～3 回あった (あった)	週に1回以 上あった (よくあった)
オ 叩かれたり、けられたり、強く押されたりした（暴力を受けた）・・・	1	2	3	4
カ 暴力ではないが、いじわるをされたり、イヤな思いをさせられたりした・・・	1	2	3	4
キ 叩いたり、けったり、強く押したりした（暴力をふるった）・・・	1	2	3	4
ク 暴力ではないが、いじわるをしたり、イヤな思いをさせたりした・・・	1	2	3	4

オ 叩かれたり、
けられたり、強
く押されたりし
た（暴力を受け
た）

カ 暴力ではない
が、いじわるを
されたり、イヤ
な思いをさせら
れたりした

キ 叩いたり、
けったり、強く
押したりした
（暴力をふるっ
た）

ク 暴力ではない
が、いじわるを
したり、イヤな
思いをさせたり
した

【モデル中学校（菊川市立岳洋中学校）データ】
「1 まったくなかった」の割合

中学1年生	オ	カ	キ	ク
小6・3月	88.4%	76.8%	87.0%	76.8%
中1・7月	91.5%	86.2%	87.5%	85.9%
中1・12月	90.2%	84.8%	86.4%	86.4%

中学2年生	オ	カ	キ	ク
中1・3月	96.1%	91.5%	96.6%	92.2%
中2・7月	95.5%	94.0%	97.8%	94.8%
中2・12月	96.3%	87.5%	97.8%	93.4%

中学3年生	オ	カ	キ	ク
中2・3月	98.3%	91.7%	98.3%	96.7%
中3・7月	93.4%	95.9%	97.5%	95.9%
中3・12月	97.5%	89.9%	97.5%	96.6%

全 体	オ	カ	キ	ク
3月	94.1%	86.3%	93.8%	88.1%
7月	93.5%	92.0%	94.3%	92.2%
12月	94.6%	87.3%	93.8%	92.0%

1年目 成果 : R1.4~

【魅力の事業を】知ってもらう、慣れてもらう

合言葉は…「何も変わりません。やっていることの問い直しです。
理解者を増やし、共に歩む。→ 各校のリーダーと共に取り組む。

○1年目の成果○ モデル校区(菊川市立岳洋中学校区…1中学校3小学校)

○本市の不登校対策は、今まで自立支援(個別支援)に力を入れた取組が中心であったが、本調査研究事業に取り組むことにより、教員の意識に変化が見られ、未然防止と初期対応の大切さに気付くことができた。

○モデル校区の顕著な成果として、児童生徒意識調査の重点項目の数値は、調査の回数を重ねるごとに増減を繰り返しつつ、増加傾向にある。

モデル校区中学校『子供の声調査』より、各学年部の「こだわる項目」と年度内の数値変化

中1 「学校が楽しい」	59.4	→	76.7%
中2 「授業に主体的に取り組んでいる」	41.8	→	50.7%
中3 「みんなで何かをするのは楽しい」	61.8	→	72.7%

各学年部の具体的な仕掛けにより、すべての項目で大幅な上昇が見られた。

2年目 目標 : R2.4~

子供たち主体の魅力ある学校づくり

- ・ 教職員による「居場所づくり」と
児童生徒による「絆づくり」のバランスを意識し、
子供たち主体の魅力ある学校づくりを目指す。
- ・ 市教委担当者等による市内各校の学校訪問を定期的 to 実施し、
PDCA学年部会等の様子を把握、
未然防止の質の向上を狙った指導・助言を行う。

2年目（3月～5月下旬まで臨時休業）

(1) 学校再開直後、**意識調査**を再開 「子供の声調査①②③」→PDCAサイクル①②③

(2) **全市展開**（市内小中12校）

ア 魅力ある学校づくり事業担当者の選出
生徒指導主事・主任、教務主任等から各校1名選出

イ 菊川西、菊川東中学校区**事業説明**（モデル校区を除く8校で希望制）
令和2年度から本事業に取り組む2中学校区の教職員向けに、学校教育課担当指導主事、岳洋中（モデル中学校）生徒指導主事による事業説明、研修等を実施する。

- ① 中学校区全体で（中学校区小中合同研修会等で）
- ② 学校ごと（管理職・担当者対象）
- ③ 校内研修で（全教職員対象）

ウ **学校訪問** ※学期に1回（授業参観・管理職、担当者と面談）
学校教育課担当指導主事、岳洋中生徒指導主事による学校訪問を実施する。
事業についての相談を受けたり、
PDCAサイクルの立案・検討の校内研修等に参加したりする。

子供の声を聞く・受け止める



学校訪問では、授業参観、校内研修、プランニング等に
参加させていただき、ありがとうございました。

2年目 力点は…

- ① 「意識調査」の結果をもとにした検証を、取り組んでいる教職員全員で議論し、それぞれの取組について「共通認識」し「徹底」して取り組む。
- ② 学校独自の取組を「共通認識」し「徹底」する。
→ 「子供たち主体の魅力ある学校づくり」へ、
「居場所づくり」 < 「絆づくり」 ※モデル校区
- ③ 小中連携(小学校7年生) ※モデル校区
(「合同児童会」の企画→中学校の年度当初に実行 等)
リモート企画会、中学校入学直後のドッチボール大会を3小合同で立案
- ④ モデル地区の取組を習う(全市展開) → 魅力事業を知る、実践する
※モデル校区以外

成果

- ・職員全員が取り組むカリキュラムマネジメント

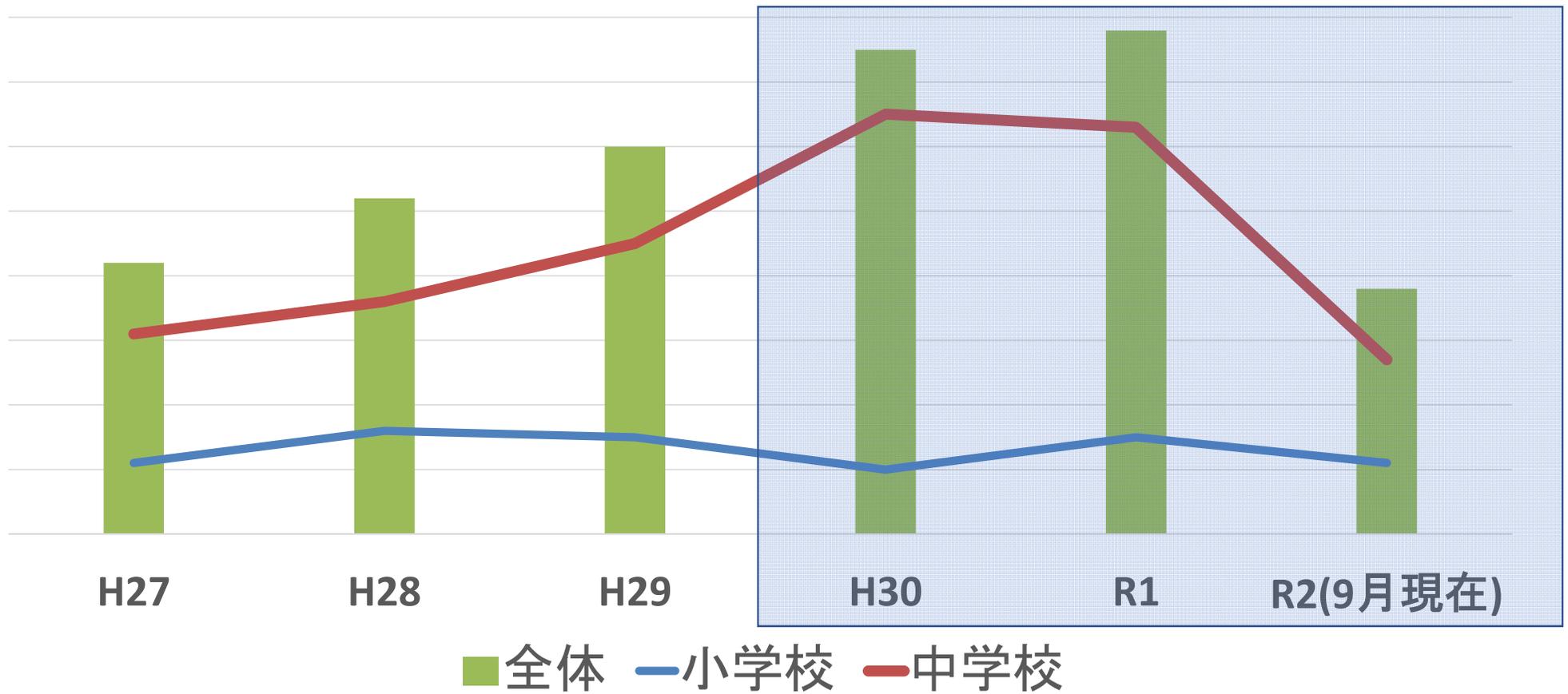
- ・「現状を維持しよう」といった停滞感はなくなる。
→◎ 効果のある取組で子供を成長させよう。



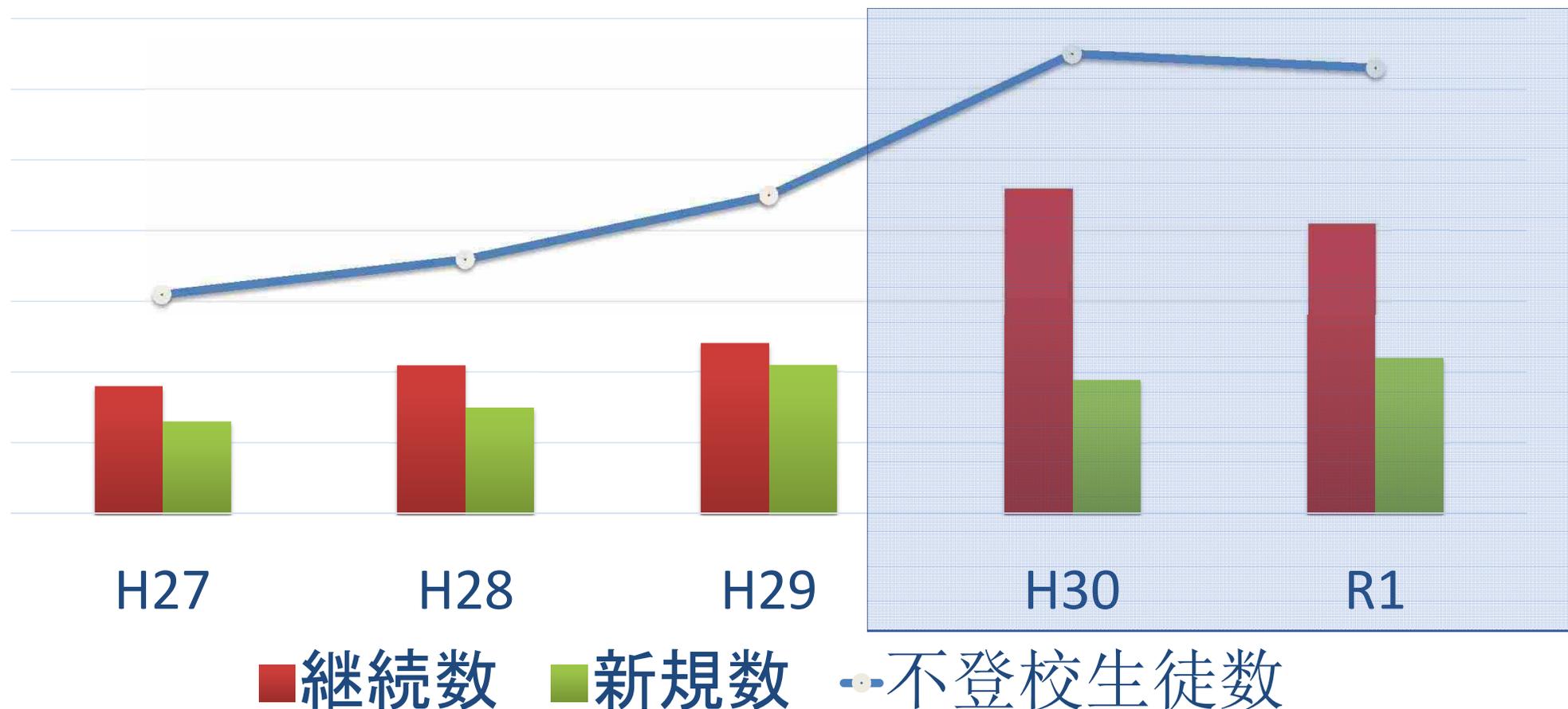
- ・PDCAサイクルは日頃の教育活動を【問い直す】こと。

PDCAサイクルを通じた教師の力量向上
生徒を見る力の向上

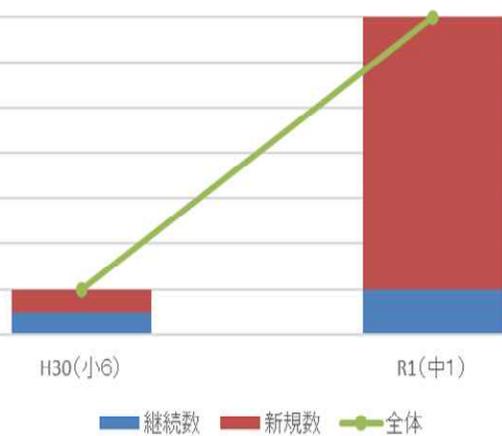
不登校児童生徒数(菊川市)



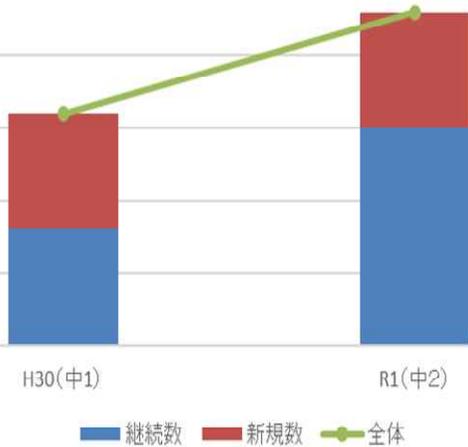
中学校不登校生徒数(継続数・新規数)



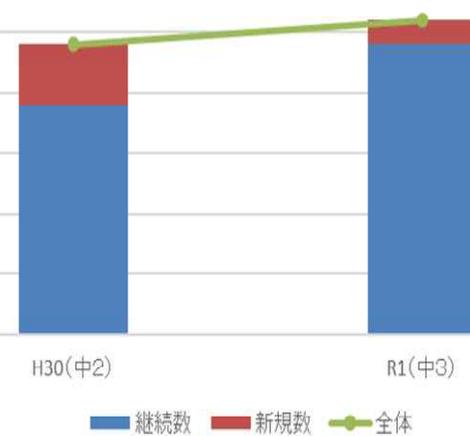
不登校児童生徒数 小6から中1(H30→R1)



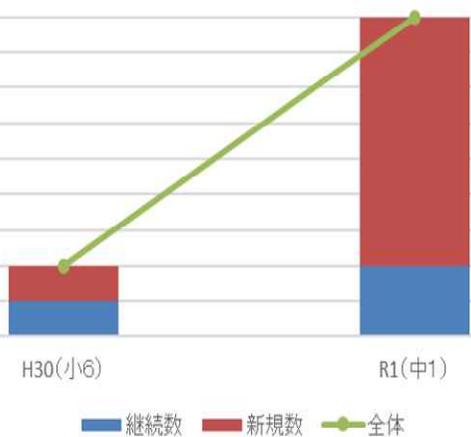
不登校生徒数 中1から中2(H30→R1)



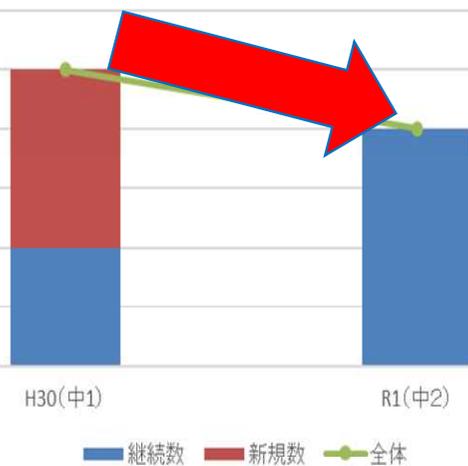
不登校生徒数 中2から中3(H30→R1)



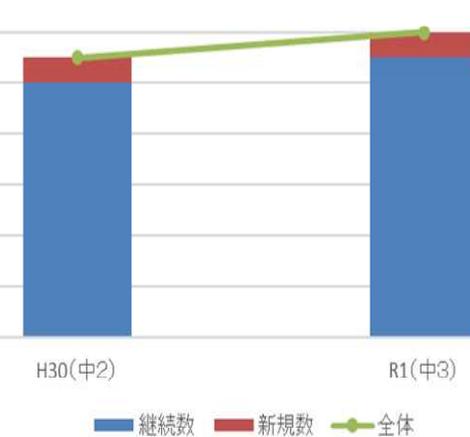
岳洋中学校区 小6から中1(H30→R1)



岳洋中 中1から中2(H30→R1)



岳洋中 中2から中3(H30→R1)



課題



- 子供にとって効果のある具体的な提案はできつつあるが、結果(大幅な不登校減少)は表れていない。
- 魅力ある学校づくりを通して、学校経営目標を達成する取組にしていく。(カリキュラムマネジメント)
- 中学校区の取組としてどのように一貫性を持たせていくか。(小中連携) ⇒ 「学びの庭」と連携して

3年目以降 事業終了後を見据えた今年度の取組 R3.4～

目標は…

魅力ある学校づくりの手法を菊川市に根付かせる
「いつでも魅力のスイッチが押せる」

- ・これからも続けていこう
- ・困ったらすぐに取り組むことができる

○菊川市として

- ・学校組織の中に魅力の理念を落とし込む(日頃の実践に対する見方・考え方)
- ・小中一貫中学校区組織の中に、「魅力ある学校づくり部会」を組織する計画がある。
構成員は、各校魅力事業担当者(生徒指導担当者等)、教務主任、小6担任、中1担任等。

○静岡県と連携して

- ・真に使えるシステムの構築
(取り扱い説明書的なもの、意識調査データ整理等のフォーマット作成)
(魅力ある学校づくりの実践研修の企画…初任研、生徒指導研、研修主任研、等)

「問い直し」を計画的・組織的に行う持続可能な点検システムとするために

(1) 学校(魅力担当者)

ア 意識調査「子供の声調査」(年間3回)→PDCAシート作成

→具体的な実践「共通認識」「徹底」「居場所づくり」「絆づくり」

・提出物…集計結果、PDCAシート

イ「魅力ある学校づくり部会(仮)」(3中学校区)の設置

・小中一貫中学校区組織の中に上記の様な部会を設置し、魅力の取組を活用して、小小連携、小中連携を推進する。

ウ 学校訪問への対応

・担当指導主事と魅力担当者の話し合い、管理職との面談(共通理解)

(2) 市教委(指導主事)「浸透度の確認」

ア 意識調査の点検・考察→PDCAシート「居場所づくり、絆づくりのバランス」

イ 学校訪問において実態を把握(年間1回+要請)「子供への浸透度、教職員への浸透度」

ウ 定期的な研修会「魅力の理解を深める、共有する、モチベーションの維持、取組のズレ・ブレの修正」

・魅力ある学校づくり研修会(魅力担当者)…検討中

・生徒指導連絡協議会(生徒指導主任・主事)年間3回…既存

・夏季研修(希望者)…既存

エ 上記(1)イの部会への参加「学校間連携での浸透度(連携の中でどう魅力を生かすか)」



今後の展開

(本市の魅力ある学校づくりの魅力の取組は、2年間で完結するわけではない)

◎ 「魅力ある学校づくり」と「学びの庭」を一体的に捉える

- ・すべての児童生徒にとって「魅力ある学校」
→ 「居場所づくり」「絆づくり」
- ・すべての教職員にとって「魅力ある学校」
→ 日常の実践を「問い直す」PDCAサイクル
- ・地域にとって「魅力ある学校」
→ 「学びの庭」



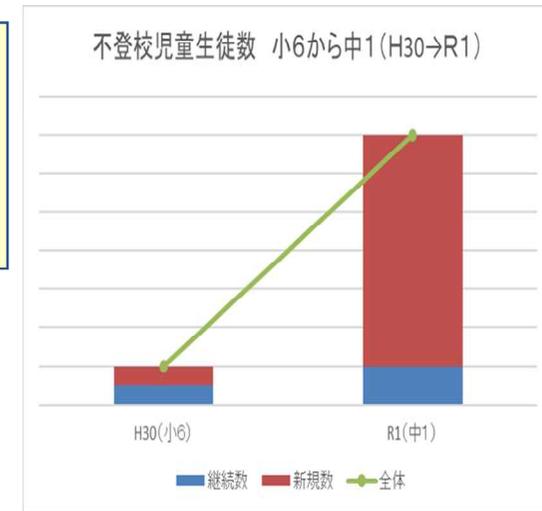
例えば…

「中1ギャップ解消を目指した小中連携のあり方について」

中1ギャップを克服するためには、小中連携が鍵を握る。

- ・小中の情報共有
例えば、

- ①小学校時代に行ってきた「居場所づくり」や「絆づくり」の取組
- ②気になる子供だけではなく、学級・学年全体のアセスメント等の情報
 - ・小学校から得た情報を中学校入学後に生かす
例えば、小学校6年次に年間を通じて行ってきた帰りの会でのミニレクリエーションを、中学校入学後も小学校6年次と同様の進め方で行うことで、中学校入学後の激変を小学校時代に培った絆で乗り越えることが可能になると考えられる。
 - ・小学校6年次を中心とした小学校時代の「絆づくり」が大切



中一ギャップ解消のための取組案

- サ SCによる情報の共有
- シ 授業における課題とまとめの形式を揃える
- ス 共通のキャリアパスポート
- セ 共通の家庭学習の手引き
- ソ 小中で研修テーマを揃える

小学校7年生の取組

- ア 仲間のよさを認める活動（帰りの会等）
- イ 朝の会・帰りの会のミニコーナー
- ウ 生徒会主催の仲間づくりミニレク
- エ 小学校での学び方の継続
（対話、協働的な学習等）
- オ 学級や行事のルールの継続

居場所づくり

- タ 小学校への出前授業
- チ 中学校の予定帳の3行日記で担任に相談
- ツ 中学の自主学習の取組を知って挑戦
- テ 一部教科担任制

絆づくり

- カ 生徒会と児童会の交流
- キ 6年生の部活動見学
- ク 新入生説明会を中学1年生が運営
- ケ 小学校合同授業・行事

中学校0年生の取組



中学校区で実践することの意味

「個」だけではなく「**集団**」をつなぐ。そのためには、**のりしろ的発想**が必要。
 のりしろ的発想をするためには、学校同士が、同じ子供の集団に対して、共に思
 いを馳せ、共に何ができるかを考え、校区全体で共有し実行する必要がある

・・・12月 1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月・・・

小学校



小学校からのばす のりしろの特徴

- 小学校生活の延長
- 進学後の不安を弱める
- 子ども主体でするしかない
- 内容は小学校が主導で提案
- 場の設定は中学校

中学校からのばす のりしろの特徴

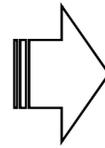
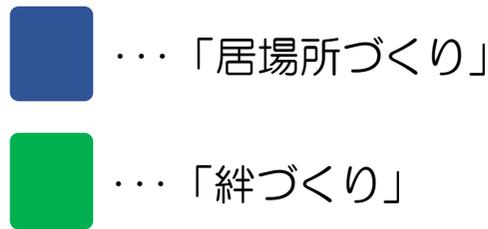
- 中学校生活の変化への予告
- 進学後への期待を高める
- 基本的に教師主導でできる
- 内容は中学校が主導で提案
- 場の設定は小学校が関与

中学校



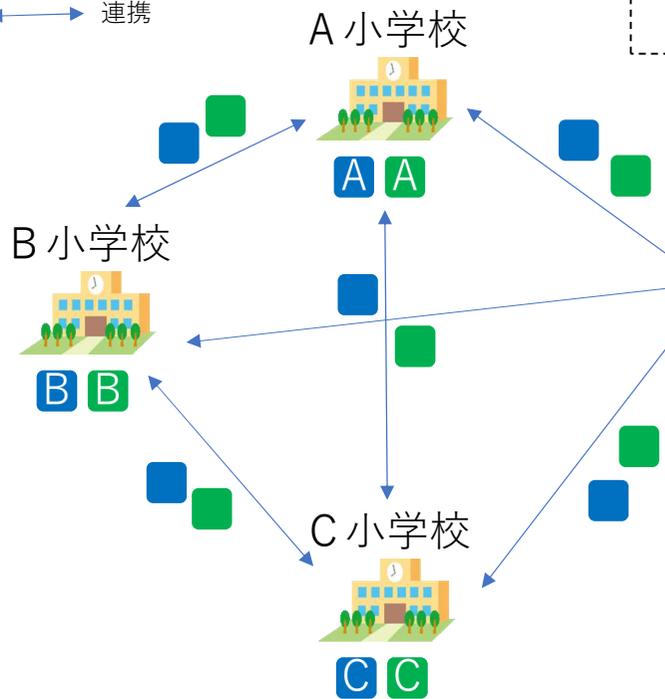


学校が取り組むこと～中学校区で実践～

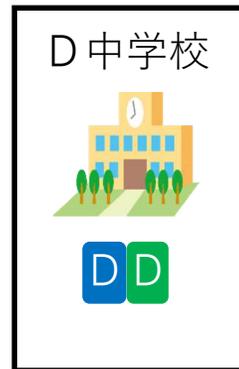


- ・情報共有（教員の相互理解）
共通したところ、異なるところ
- ・揃えられることはないか
- ・どこまでは揃え、どこは揃えないか
- ・効果的な連携は？
どのタイミングでどんな連携？

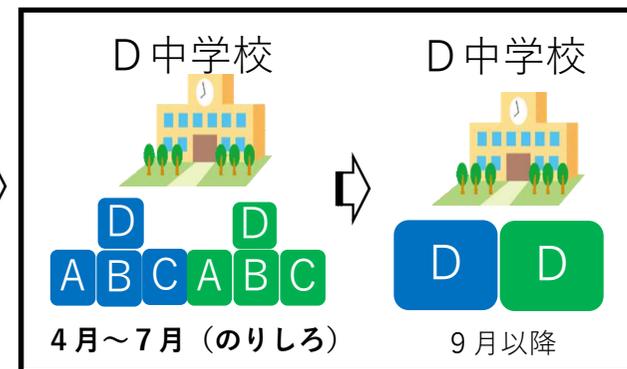
↔ 連携



従来



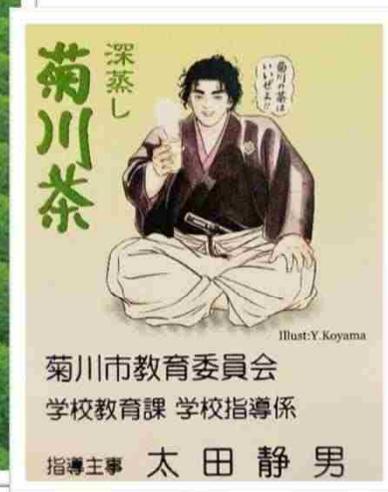
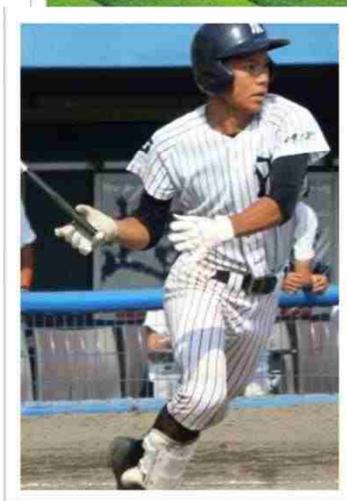
集団指導の連携



前年度までに培った絆で3ヶ月を乗り越える学級集団、学年集団づくり
 → 特に校種が変わるときは重要

中学校区全体の取組という意識で、
 横（小・小）・縦（小・中）での連携を！

静岡県菊川市の「魅力ある学校づくり」



静岡県菊川市教育委員会 学校教育課 太田 静男 2020.12.14
Tel:0537-73-1113 e-mail:gakkou@city.kikugawa.shizuoka.jp



「魅力ある学校づくり調査研究事業」 静岡県菊川市立岳洋中学校区（岳洋学舎） 成果報告会



アンケートQR



本日は
ありがとうございます。
アンケートにご協力ください。
12月18日までに
ご回答ください。



「魅力ある学校づくり調査研究事業」 静岡県菊川市立岳洋中学校区（岳洋学舎） 成果報告会



本日は
ありがとうございました。
ぜひ、ご視聴ください。

オンデマンド配信QR

